

令和6年度 地域医療構想調整事務局会議における意見等

資料7

団体名	令和4年度滋賀の医療福祉に関する県民意識調査について (認知症患者への対応について意見交換)	新型コロナウイルス感染症流行期の事業	新型コロナウイルス感染症が感染症法上第5類感染症に移行した後の事業 実施状況
東近江介護サービス事業者協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の基本的なところを知る人が増えるというのは大変良いことと思っている。</li> <li>・少しおかしいと思われる挙動をしている高齢者に気付いて、警察に届けてもらう、暖かくみてもらうなど良い目が育っていると思われる。</li> <li>・住み慣れたところで…というスローガンは患者家族にとっては厳しい。</li> <li>・BPSDがきつくなると、デイサービスだけでは支えられず施設に入れられる方も多い。</li> <li>・施設においては人材確保が厳しくなっている。</li> <li>・施設の職員に余裕がなく対応に難しいケースもある。</li> <li>医療機関との受診調整について、入所している他の利用者からも要望されるのでうまく医師とつながって調整ができるといいが、難しい場合もある。</li> </ul>	<p>過去の事業の実施状況は以下の通りであるが、活動の実施主体となる役員も高齢者介護施設、事業所の職員であり、活動をする上での判断は慎重にならざるを得ず、大幅に活動が縮小された。オンライン開催も配信の上での課題があり、十分な対応ができなかった。活動の縮小を想定し、会費負担の減額について配慮した。</p> <p>【R2年度】 総会：書面議決、記念講演会：中止 全体研修会：中止 会費減額し1法人8,000円、加算サービス800円 各サービス単位での部会活動はほとんど実施できず</p> <p>【R3年度】 総会：書面議決、記念講演会：中止 全体研修会：オンライン開催 会費減額し1法人6,000円、加算サービス600円 各サービス単位での部会活動は大幅に縮小</p> <p>【R4年度】 総会&amp;記念講演会：会場開催 全体研修会：会場開催 会費減額し1法人6000円、加算サービス600円 各サービス単位での部会活動は大幅に縮小</p>	<p>令和5年度は通常の活動を予定している。</p> <p>6/13に総会&amp;記念講演会を会場開催にて実施。5類感染症のなったことで、会費は減額なしにて1法人10,000円、加算サービス1,000円、全体及び各サービス単位での活動も正常化する計画、予算としている。ただ、新型コロナウイルスの流行期の活動は、5類感染症となってもかなり慎重な判断が必要になると考えている。</p>
東近江圏域介護支援専門員連絡協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の住まいが特別養護老人ホームからサービス付き高齢者向け住宅に流れている。</li> <li>・サービス付き高齢者向け住宅について監査等を行い、職員の資質向上等について啓発していかないといけない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参集型の研修会の開催はできず。オンラインでの開催とした。</li> <li>・以下の事業についてはコロナ禍までは、他職種の連携会や研修会を合同で開催等もあったが、全くできなくなった。</li> <li>・訪問看護 ST との研修会および意見交換会、通所リハビリとの研修会および意見交換会、サービス事業者協議会の各部会での共同開催。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインでの研修、意見交換会に慣れてきたことで、ハイブリット（会場+オンライン）で参加ができる体制ができた。</li> <li>・退院前カンファレンスも Zoom 等の参加の機会が増え、ケアマネージャーオンライン等 ICT 活用も慣れてきた。</li> </ul> <p>事業ではないですが…困りごとです</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院での会議（IC、カンファレンス）、本人面談はまだ制限されているので、連携が回りづらい</li> <li>特に本人面談ができないと、意向が確認できず、サービスが希望とは違った形で提案されることがある。退院し、サービス開始後にすぐの再調整が必要となることが続いた。</li> </ul> <p>コロナ過で面会制限の中、一時外出、外泊ができず、本人ADL・精神面の変化がとらえにくい状況が続いている。</p> <p>医療的な処置等の家族指導も限られた時間で行われるため、なされないままに退院するケースがある。</p> <p>病状説明が電話等で行われることが多く、病状（予後について）家族の理解が十分でないこともある。</p>

訪問看護ステーション連絡協議会第4地区支部		<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会や会議 集合研修の中止 → リモート会議へ変更</li> <li>・他事業所への実習の中止</li> <li>・外部との交流会</li> <li>・訪問の見合わせ、キャンセル、変更</li> <li>・マスクや手袋、防護服などの供給付属や値段の高騰</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会や会議などが集合で行えるようになった。</li> </ul>
地域から医療福祉を考える東近江懇話会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・五個荘町の自治会で認知症の早期発見のための訓練を始めた。今年で8年目。</li> <li>・認知症を見つけることが目的でなくて、認知症とはなにかを理解していくもの。</li> <li>・五個荘町を北、中央、南の3区に分けて実施している。現在では自治会が段々と自立してきて、それぞれで取り組んでくれている。</li> </ul>	<p>事業についてはWeb開催が主になった。</p>	<p>対面形式で4年ぶりに再会することとなっている。</p>
近江八幡市長寿福祉課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域での認知症の病態の理解は進んでいるが、実際の関わり方、接し方がまだまだわからないとの声があり、これから啓発していこうというなかで新型コロナウイルスの流行があった。</li> <li>・今後は新型コロナウイルス感染症が第5類になったので、啓発をしっかりとしていきたい。</li> <li>・認知症の方の初期対応として、すぐ病院で診断されたり介護保険認定を申請されたりする方は増えてきているが、介護保険認定が下りず、サービスに繋がらない方が多い。そうした方の居場所づくりやどのような関わりが必要になるのかといったことも含めて検討していきたい。</li> </ul>	<p>&lt;中止・縮小した事業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*地域・企業・学校等を対象とした認知症啓発をはじめとした各種啓発事業について中止、縮小。</li> <li>*各種事業（介護者のつどい、脳活カフェ等）において、市民同士の交流や茶話会等をプログラムの一部として取り入れていたものについては内容を変更して実施。</li> <li>*総合事業の通所型サービスについては、最大利用人数の制限、開催時間の変更（食事の中止）。</li> <li>*医療・介護関係者参加の会議やつながりネット（多職種連携）については、中止またはオンラインで実施。</li> <li>*市民の感染に対する不安感や感染予防の点から、家庭訪問に行きにくい状況があった。地域での集団活動へのつなぎや活動実施に向けた働きかけも減少。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*いきいき百歳体操等の地域活動については、感染予防に配慮、工夫しながら活動を継続できるよう働きかけたが、コロナ禍で活動を休止し、現時点でも活動の再開ができていない地域もみられる。</li> <li>*虐待ケースにおいて、早急なサービス調整が必要だったが、新型コロナ感染症の影響によりすぐに対応できないケースや受け入れ先がなかなか決まらないケースなど、対応の難しさがあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*業務については、5類感染症になる以前から感染状況をみながら、通常業務に戻ってきていたので、ほとんどの業務が流行期前の業務内容に戻っている。</li> <li>*コロナ禍による地域活動自粛、外出機会の減少により、心身の機能低下をきたしている高齢者が把握しきれていない（特に高齢者ひとり暮らしや高齢者夫婦世帯）</li> </ul>
東近江市地域包括支援センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業からキャラバンメイトの認知症講座の依頼が増えた。</li> <li>・企業の従業員が講習を受け、バッジをつけることで患者に安心感を与えようとしている。</li> <li>・食料品店でも講習を行い、店内で徘徊する方、同じ物ばかり買う方などに対してどのように声をかけるかという内容。</li> <li>・どのようにサービスを増やしていくか、サービスにつなげるか検討しつつ引き続き事業に取り組んでいく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアマネジメント実施事業所等連携会議をオンライン開催が中心となった。</li> <li>・グループホーム事例検討会は予定通り対面で開催したが、施設職員は感染に対して大変気をつけておられ、欠席される事業所が目立った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症講座の依頼が多くなった。</li> </ul>
日野町長寿福祉課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カフェや講座などは、キャラバンメイトが自ら組織化されて活動を開始されたところ。</li> <li>・認知症に対するもっと若い世代への啓発として、高校生中学生を対象に行ってきたが、今年はさらに小学生への啓発を計画している。</li> <li>・昨年度から認知症のフォーラムをしており、「当事者発信」を行うために若年性認知症の方を演者と呼ぶ予定。</li> <li>・認知症初期の支援チームを中心に、増えてきている相談にケース対応をしているところ。認知症の早期段階での相談は増えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わたむきねっと（多職種連携）では、ZOOMの活用による研修会を行うなど継続した活動をしていたが、地域ケア会議では個人情報を取り扱うことからオンラインでの開催が困難でありコロナ禍のなかでは会議を中止していた。</li> <li>・地域のサロン等が軒並み中止になったことから、居場所がなくなり閉じこもりによる介護認定の相談が増えた。その影響で要支援者のデイサービスの利用受け入れが困難になった。</li> <li>・コロナ禍の前は医療介護連携を目的に日野記念病院とケアマネジャーとの話し合いを進めていたが、感染拡大と同時に中心になった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在は町の事業も地域の行事やサロン等も通常に実施されている。</li> </ul>

<p>竜王町福祉課</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症についての啓発に力を入れている。</li> <li>・サービス担当者会議などで、認知症で不愉快な思いをしているケースを把握したら、竜王町内の字に行き啓発を行っている。</li> <li>・小学校5年生と中学3年生に対し認知症啓発へ行っている。</li> <li>・今年は製造業工場から依頼があり、認知症についてZOOMで講演を行った。食料販売店においても研修をしているところ。認知症の方の徘徊や商品の包装を開けた際にどうするかなど従業員に対して研修、啓発を行っている。</li> <li>・総じて幅広い年齢の方に啓発している。</li> <li>・認知症ケア研修会として、介護職員やケアマネに対して認知症の方の対応方法などを講習している。</li> <li>・キャラバンメイトの活動については地域の方が協力的で円滑に実施されている。</li> </ul>	<p>◎ふきのとうカフェ（認知症カフェ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間短縮・・2時間⇒1時間半。月2回開催は変更せず。・飲食についてはコーヒーなどの販売、おやつ提供は中止。各々お茶を持参</li> </ul> <p>◎介護職員等キャリアアップ研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Webを用いてハイブリッド開催・・参加人数増の目的もあるが、感染予防も考慮した</li> </ul> <p>◎介護予防教室、認知症サポーター養成講座、生涯現役事業、地域のおたっしや教室、グラウンドゴルフ、老人会活動などは中止。高齢者の居場所がなくなり、ADLの低下、認知機能の低下を招いた。</p> <p>◎退院前カンファレンスについてはZOOM開催など工夫し実施された。</p> <p>◎ぼちぼちねっと竜王について医療、介護、福祉に関わる情報の共有化や、参加者相互の連携の強化により、町民に提供する在宅療養の質の向上を目指して民間主導で発足した学習会の場。行政は後方支援を実施。中心メンバーの医師が、コロナ診療で超多忙となったことと、コロナ感染症の蔓延で、開催できなかった。再開に当たっては、ハイブリッド開催とした。</p> <p>いずれも、三密を避ける・体温測定など体調のチェック・消毒・換気を徹底していた。</p>	<p>◎介護予防教室をはじめとした各種活動の再開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のおたっしや教室では、運営者の不安が大きかった。再開時期はいつにしたら良いのか？感染対策はどこまでしたら良いのか？など。</li> <li>・参加者の心身の状態変化が大きかった。当町では、コロナ拡大前後での要介護認定申請者の明らかな増加はなかったが。</li> </ul>
---------------	--	---	---